

環境問題シリーズ 第26章

その2

国連サミット COP15「生物多様性条約」を知っていますか？

地球環境に学ぶサークル 小田原 一博

2022年12月、カナダ・モントリオールでCOP15(第15回生物多様性条約締約国会議)が開催されました。この会議では、2030年までに「地球上陸域、海洋・沿岸域、内陸水域の30%を保護する」という画期的な合意をしました。この合意は世界中の人々が「私たちの地球を守り」、「生物多様性の喪失を止め」、「陸地や海洋を保護・回復する」というものです。

1. COP15 生物多様性条約とは

- ① 生物多様性条約は、1992年開催の国連環境開発会議で気候変動枠組条約(UNFCCC)と共に発足し、190カ国以上が批准しました。



2. 生物多様性とは、その現状は

- ① 地球上の動植物の豊かな種類(バラエティ)を意味します。生物多様性は世界中で低下し、もはや無視できない状況に達しています。
- ② 世界自然保護基金(WWF)報告2022では、1970~2018年の間に脊椎動物の個体数が平均69%減少したと指摘されています。
- ③ 生物多様性に関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)報告2019によると、動植物の25%が絶滅危機に晒され、約100万種は既に絶滅寸前ということです。
- ④ これは深刻な状況で一部科学者らは地球史上第6回目の絶滅期が迫っていると警告しています。(第1回絶滅4.4億年前、2回3.7億、3回2.5億、4回1.9億、4回0.6億)

3. 生物多様性はなぜ重要か

- ① 動植物、微生物等からなる地球の生態系は、数億年を経て生命のバランスを保っています。全て直接・間接に繋がりが合い、壮大な生命の環を形成しているため、一度バランスが壊れると大量絶滅も起こりうる状態です。
- ② 例えば遺伝子が同じ農作物を連作すると、特定の病気や気候変化で全滅しやすくなります。

それぞれ異なる遺伝子を持つば、個体毎に耐性が異なり全滅を防ぐことができます。このように、環境変化に対して生物は多様性により生存率は高まり、絶滅危機を避けられます。

4. 生物多様性の低下と地球温暖化の関係

- ① いずれも人類(我々)の急増と経済・開発活動が原因です。温暖化や気候変動だけではなく、生物多様性にも悪影響を及ぼしています。
- ② 生物多様性の低下は、過度な開発、自然破壊、化学物質による環境汚染、海洋プラ汚染、農薬や肥料、動植物の乱獲等が主因です。
- ③ 地球温暖化と生物多様性の喪失という、二つの課題は並行して取り組む必要があります。例えば大規模な森林再生も、単一樹種の植林でCO2排出抑制できても生態系バランスを崩して生物多様性を欠きます。

5. COP15の結果

COP15は2030年までの達成を目指す新たな国際ルールを採択しました。



グテーレス国連事務総長は、今回合意は「私たちがようやく自然との和平協定の締結に着手した」ことを示すと語り、すべての国に約束を果たすよう求めました。